

堀川 英寛 さん

(カイロプラクター・キャンプサイト経営)

婦恋に中古の別荘を購入したのが18年前。東京で勤務中に週末リフレッシュするため通っている内に、定年後永住することを決意し、住み始めて7年目を迎えている。エステティシヤンの奥様と愛犬ひなちゃんと生活中。現役時の職業を聞くと、外見からは想像もつかない航空自衛隊のパイロット。F4ファントムという戦闘機に乗って日本中を飛び回り、北海道から沖縄まで四国を除く各地域で勤務したそうだ。緊張の連続で根無し草のような生活をしていたので、ゆっくり落ち着ける自然の中で余生を送りたいというのを、この地を選んだ一番の理由に挙げている。

現役中、4回程死にかけたそうだ。ぎりぎりの厳しい訓練を積み重ねなければいざという時役に立たない、と訓練の厳しさを語ってくれた。体への負担も大きく、首、肩、腰の凝りをほぐすため各種施術院に通っていたことから、その技術を身に付けようと現役中から少しづつ勉強し、定年後カイロプラクターと健康管理士の資格を取った。昨年未自分の施術院を設け、婦恋村フレイル予防サポーターの養成研修を終え、地域住民の健康管理に貢献することを目指して頑張っている。並行して施術院のすぐ近くに念願のツリーハウスを建て、今後オートキャンプサイトを2ヶ所整備して、夏までにはプライベートキャンプ場にしていく計画も進行中。

また、浅間山北麓ジオパークの広報・観光運営委員、同公認ジオガイドとして、地域振興にも尽力したいと、意欲を示していた。今後の多方面での活躍を切に祈りたい。



← 現役最後のフライト光景

豆知識を専門家が解説

## 浅間山の天気俚語等について

「天気俚語」とは、科学的な天気予報がなかった時代に「ある現象が起こると天気がどうなるか」といった経験をもとに今後の天気の変化を予想していたものです。現在では「観天望気」ともいわれています。浅間山に関する「天気俚語」について調べてみましたので紹介します。

「浅間山の煙が北西に上がる時は雨、南に下がれば晴れ」という天気俚語があるようですが、煙が北西にたなびく時は主に南東からの風が浅間山に向かって吹いている証です。

この時の気圧配置は、関東地方や関東地方の南岸を低気圧が東に進んでいる時で、この低気圧の前面で海からの湿った空気が浅間山周辺にも流れ込んでおり、低気圧の接近と共に雨が降り出すこととなります。また、煙が南へたなびく時は西高東低の冬型の気圧配置の時に吹く北西の季節風による場合や、低気圧が関東地方を通過した後になります。

天気は、冬季で寒気が強い時は浅間山の麓(婦恋村)まで雪が降ることがありますが、普段は日本海側で雪を降らせた後の雲だけが、山地を越えて乾いた風となって流れ込むため、カラッとした晴天になりますし、低気圧が関東地方を通過した後も同様に、回復傾向となります。

このように、先人の知恵として天気予報のなかった時代でも浅間山を見て精度よく現象を予想していたことが分かりました。

また、山頂付近に傘の様な形をしたレンズ状の雲が出現した時は、地上付近で風が弱くとも、上空では強風となっている証です。これは上空の強風により、浅間山に吹き付けられた空気が強制上昇し、冷却され凝結して発生した雲で、天気は下り坂になることが多くなります。皆さんも浅間山を眺めたり、身近なことで、どのような時にどのような天気現象が起こるかなど予想したり、天気予報と比べるといったことも面白いと思います。



赤丸内がレンズ雲  
3層のレンズ雲


気象庁 前橋地方気象台  
観測予報管理官 石川 晴美

6月 16日(日)	第32回	北軽井沢マラソン
6月 30日(日)	第12回	婦恋村キャベツマラソン
6月中旬～7月上旬		湯の丸高原つつじ祭り
7月下旬～8月下旬		浅間牧場内遊歩道ツアー




**イベント情報  
活動報告**

**【旧草軽電鉄ジオツアー】**  
4月27日(土)に「歩こう草軽電鉄」を開催致しました。歴史に想いを馳せたり、時の流れの速さを実感する、とても良いツアーとなりました。



**【ジオパーク総会】**  
5月8日(水)にジオパークの総会が開催されました。2年後関東ブロック大会の開催が決定し、浅間北麓ジオパークの鳥瞰図(ジオアート)が引き渡されました。



発行元：浅間山ジオパーク推進協議会  
Mt. Asama Geopark Promotion Council  
〒377-1524 群馬県吾妻郡婦恋村大字鎌原494-45  
TEL/FAX：0279-82-5566  
URL：www.mtasama.com  
E-mail：geo-asama@vill.tsumagoi.gunma.jp  
Facebook：www.facebook.com/asamageopark  
制作担当：広報・観光委員会

**ガイドの受付しています**  
「浅間山北麓ジオパークガイドの会」の認定ガイドによる案内の受付をしております。ご希望の方は、左記、推進協議会事務局までお申し込みください。  
【料金表：ジオガイド1人あたり】  
半日¥5,000～8,000 ジオガイド1人につき  
1日¥10,000～16,000 15名位までガイド可

**編集後記**  
浅間山の特集、そこには、知っているようで知らない物語が沢山ありました。ジオパークの活動を通じてこれからも、紹介していきたいと思っています。

Vol.09

2019 夏号



# あさまびと

特集：浅間山 大地のものがたり



▲ 湯の丸レンゲツツジ群落 ▲

6～7月に見頃を迎える国の特別天然記念物、湯の丸レンゲツツジ群落は、まもなく見頃を迎えます。山一面を赤く染めるツツジは、国内最大の群落、60万株とも言われています。

**花木の女王 石楠花**

浅間山(黒斑山)のふもとにシャクナゲ園があります。東京ドーム十個分の広さです。毎年五～六月にかけて約十五万本のシャクナゲが咲き誇ります。標高千五百～千七百メートルにあり、まさに天空の花畑です。ピンクのアズマシャクナゲが咲き、少し遅れて白いハクサンシャクナゲが咲き始めます。

レンゲツツジ、イワカガミなどの高山植物も見られます。周遊コースが整備されて、ハイキングを家族づれで楽しむこともできます。

この石楠花が咲き誇る時期には「浅間高原しゃくなげ園まつり」も開催されます。無料のバスが万座・鹿沢口駅から出るようになります。

シャクナゲ園は、地元住民の手によるボランティア活動で群落の保全を続けてきています。みんなで作り続けているお花畑です。





# 特集 浅間山 大地のものがたり

新しい令和の時代になりました。振り返ると平成という時代には阪神淡路大震災、東日本大震災をはじめ、異常気象、自然災害などがとても多かったことも印象的でした。火山災害も多発し、御嶽山の大災害や阿蘇山、霧島山、口永良部島の噴火があり、身近なところでは箱根山、そして草津白根山の噴火もありました。私達の日本列島には活火山が111ヶ所もありますから、火山を学び、暮らすことはとても大切なことです。浅間山は地域のシンボルですし、火山活動と向き合ってきた先人の暮らしがありました。普段、身近に接している浅間山、今回は、その成り立ちなどについて紹介してみます。

【承認番号】  
この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を使用した。  
(承認番号 平30情使、第72-GISMAP41970号)

## 日本の中央 火山前線の屈折点にある浅間山

北海道南部から東北地方を南下している火山前線は関東に入ると南西に向きを変え浅間山に到ります。ここで再び向きを変え、富士山方向に南下していますから、浅間山は屈折点に位置する特異な火山です。(図1)  
およそ1,500万年前、大陸から離れて今の位置に定まった時、日本列島は東北側の陸と西日本側との間には大きな海溝があったといわれます。太古の昔、私たちの地は海峡の縁だった可能性があるのです。東北の火山前線は、太平洋プレートが沈み込んでいる所から約100~150km辺りの地中でマグマができ、地上の火山となって現れています。ところが関東エリアの地下には、太平洋プレートだけではなくフィリピン海プレートも沈み込み、その結果、東北からの火山前線は内陸に押し込まれています。再び南下をする場所にある浅間山火山は、地下深くにあるプレートの活動によってもたらされているのです。(図2)



図1 気象庁HPより

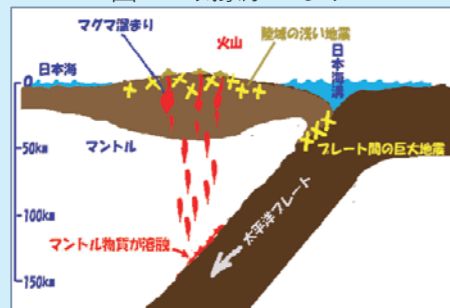


図2 独立行政法人防災科学研究所HPより

## 浅間山はこうしてできた！

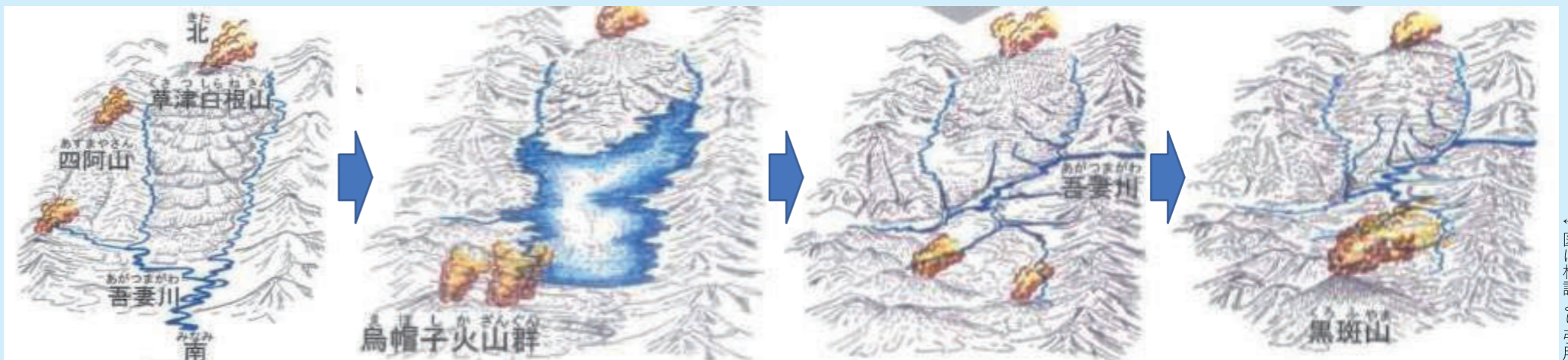
浅間火山は、烏帽子岳から小浅間山に到る東西25kmの烏帽子火山群の東端に位置し、40万年前以降に西から形成されてきました。浅間火山自体は、10万年前以降に活動を始めていますので、火山としては最新の火山。今の姿になるまでに様々な活動のドラマがありました。活動の経緯を4段階に分けて成り立ちを見てみましょう。(図3)



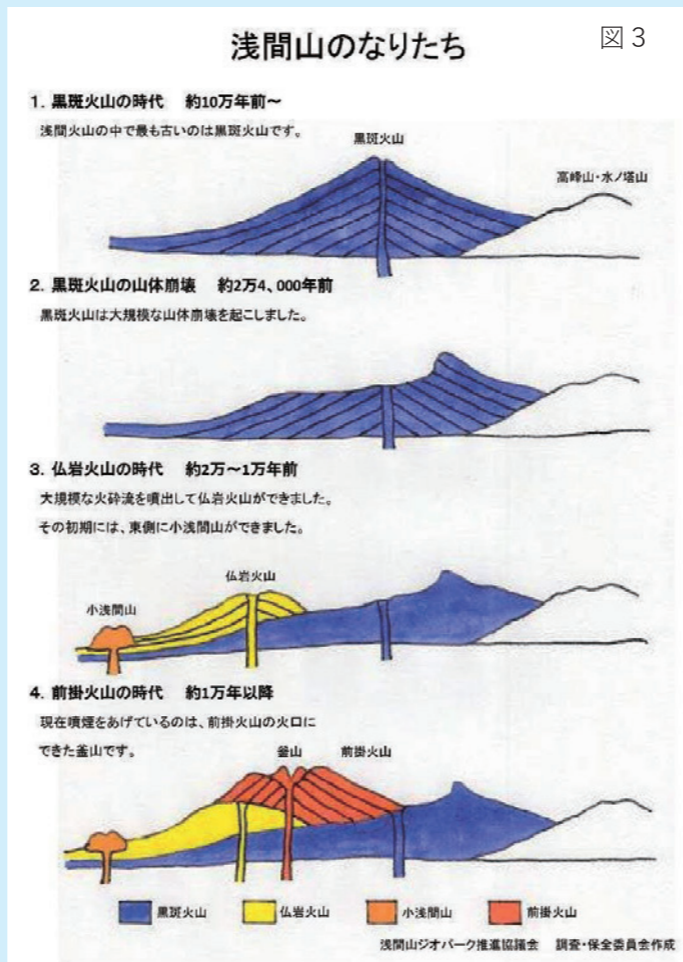
「千トン岩」は1950年9月23日に噴出しました。

## 浅間火山が高原の姿を一変させた！

浅間高原の東側にはおよそ100万年前に南北に霧積火山群(菅峰、浅間隠山、駒髪山、鼻曲山等)が形成されたあと、四阿山、草津白根山などの火山が活動し、湯ノ丸浅間火山群が東に活動が進むと吾妻川はせき止められて大きな湖「古孺恋湖」が形成されました。約70~10万年前まであったと考えられていますが、やがて浅間火山が東側に形成されていくと、湖水は吾妻峡方面を侵食し流れを変えました。活発な浅間火山活動は湖水を埋め、大量の噴出物によって高原の台地を一変させました。



20万年以上前 → 西から烏帽子火山群が活動を始めた → 湖の水は、吾妻峡の方へと流れ出した → 烏帽子火山群は東端に浅間山火山を形成し現在に至った。



## なぜ前掛山と呼ばれるのか？

実は、浅間山という名称の付く山頂はなく、黒斑山、仏岩山、前掛山らを総称して浅間山と呼んでいます。八ヶ岳というピークの山がないのと同じです。現在、噴煙が出ているところは前掛山の釜山。ではなぜ前掛山と？  
長野県側の伝承に、富士山と浅間山は姉妹で、ある時、浅間山のお姉さんが、富士山の妹に自分より高いことを嘆いたら妙義山に住む大男が、前掛けを広げて富士の砂を入れて運んできた。でもその量が少なかったから大男を叱ったら驚いて山の麓にこぼしてしまった。その落とした小山が小浅間山となったのだと、前掛伝説が残されています。一方群馬県側では、山体の姿から寝観音様にたとえられ、お腹の釜山がデベソに見えて恥ずかしいので見えないように前掛

をかけた、観音様から釜山が見えないようにしたので前掛山と伝わります。珍説では、四阿山の北側にある山名「鍋蓋山」「土鍋山」などのキッチンを前に前掛けをして待っている姿というから面白いですね。でも、エプロンでもある「前掛け」というのは江戸時代の中ごろから使われた言葉です。それまでは「前垂れ」と言われていました。政治も暮らしも安定してきて、江戸庶民は浅間高原の信州街道を通り、湯治や善光寺参りなどで盛んに行き交うようになり、親しみを込めて前掛山と呼んだのかも知れません。

## ひとくちメモ② 火山帯という名は教科書から消えた！？

昭和の時代に学んだ人は、日本には7つの火山帯(千島、那須、鳥海、富士、乗鞍、白山、霧島)があることを習いました。しかし今は中学や高校の教科書から消えました。それぞれの火山帯の境界が曖昧であることやマグマの発生の仕組みから考えるとあまり意味のない分類、といったことが理由です。研究と共に変わるんですね。



北麓から見た浅間山は観音様の寝姿にたとえられている



## ひとくちメモ① 休火山・死火山という用語はなくなった！？

少し前までは、しばらく噴火していない富士山を「休火山」と言い、四阿山のような噴火の記録、文献が無い火山を「死火山」といっていました。でも、火山活動は数百年程度の休止期間はよくあることから見直され、今は「休火山・死火山」という用語は使われなくなりました。

← 調査のため、許可を得て撮影しています。